

り制度等の見直し、また、制度の期間等々ありますけれども、広く今後もデンカさん、明星セメント、サミット明星パワー等、今バイオマス発電やられておりますが、そういったところも、今後、意見交換なりをしながら、取り組みをまた検討していきたい、取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

○6番（滝川正義君）

ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、滝川議員の質問が終わりました。

昼食時限のため、13時まで暫時休憩いたします。

〈午前11時58分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

清政クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川産業創造プラットフォーム事業創設について。

糸魚川商工会議所が発刊している商工いといがわ令和元年5月号に糸魚川産業創造プラットフォーム事業を創設～「糸魚川産業活性化センター（案）」創立に向けて～との記事が掲載されておりました。

その事業の取り組みの1つとして、平成31年4月26日、総務省より平成31年度「シェアリングエコノミー活用推進事業」採択団体の決定の報道があり、糸魚川市の事業が、わずか5団体の中に選ばれ、採択されたと報じられました。

糸魚川産業創造プラットフォーム事業は、今後の糸魚川市にとっても注目の集まる事業になると考えます。

(1) 糸魚川産業創造プラットフォーム事業の目的と活動内容について伺います。

(2) シェアリングエコノミー活用推進事業の目的について伺います。

(3) シェアリングエコノミー活用推進事業において、企業間連携を進めるために、企業の情報を一元化し、共有・活用する「コト・ワザ・モノ・ヒト」データベースを作成するとあるが、行政もかわり情報を可視化するならば、どの分野が当てはまるか伺います。

(4) 糸魚川産業活性化センター（案）設立に向けて、糸魚川市はどのように関わっていくの

か。また設立後は、産学官金連携で注目を集める事業になると考えるがいかがか。

2、糸魚川市駅北復興まちづくり計画と地域資源を生かしたまちづくりの関連性について。

2017年8月26日に糸魚川市駅北復興まちづくり計画が策定され、復興整備期も中盤に差し加かろうとしています。その傍ら、地域にかかわる方それぞれにまちづくりに対する機運が上昇し、まちづくり活動に励まれている方々もふえ始めています。復興まちづくり計画において新しいものがつくり出される期待感の中で、駅北全体のまちづくりの構想は、リノベーションのまちづくりで象徴されるように、今ある地域資源（あるもの）を活用したまちづくりと新しくできるものが、いかに融合できるかに期待がかかっていると考えます。

- (1) 今後目指していく駅北全体のまちづくり構想について。現時点で、駅北で拠点施設とされる施設の利用状況と、これから計画する「拠点」との明確な違いについて伺います。
- (2) 新幹線乗降客を見据えたまちづくりについて。駅北復興まちづくり計画の道路美装化と雁木の整備による「まちあるき」のストーリーはどのようにお考えか。
- (3) 地域資源を活用したまちづくりについて。新潟県指定史跡の相馬御風宅や、国土の歴史的景観に寄与する旧高野寫眞館を生かした駅北復興まちづくりはお考えか。
- (4) 出雲、諏訪、糸魚川の交流の発展を目指す「神話で結ぶご縁の会」に対する今後の期待と、新幹線乗降につながる交流人口増加の展望をお持ちか伺います。
- (5) 糸魚川市における着地型観光を見据えた「地域おこし企業人」派遣による期待される効果と現状について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、市内の各企業をつなぎ、諸課題の解決を図りながら企業価値を高めていく取り組みであります。主な活動内容は、シェアリングエコノミーの取り組みや企業の情報発信と人材募集共同事業であります。

2点目につきましては、企業や個人が保有する遊休資産を他の企業も利用可能とする仕組みであり、地域経済の活性化を図るものであります。

3点目につきましては、行政としては遊休資産の活用が考えられます。

4点目につきましては、商工会議所の移転計画に合わせて、設立を検討しているとお聞きいたしておりますが、検討段階と認識いたしております。

2番目の1点目につきましては、駅北の拠点施設であるヒスイ王国館は、会議や観光客向けの施設であります。現在検討を進めているにぎわいの拠点につきましては、基本的には市民を主体に考えております。

2点目につきましては、駅と日本海をつなぐ動線として、また、周辺を歩いたときに糸魚川らしさを感じられる町並みを目指しております。

3点目につきましては、両建物のほかにも駅北地区には大火を免れた多くの建物が残っており、

それらをまちづくりの素材として活用してまいります。

4点目につきましては、奴奈川姫の物語などを通じた情報発信や交流を期待しているところであり、これらの活動により、交流人口の増加につなげるものと考えております。

5点目につきましては、これまでの知識と経験を生かし、魅力的な旅行商品の企画とともに観光協会の運営に寄与していただけることを期待いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくお願ひいたします。

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

産業のプラットフォーム事業創設について（1）から順を追って、質問させていただきます。

糸魚川商工会議所発行の商工いといが令和元年5月号では、糸魚川市の産業界の各業界をつなぎ、諸課題の解決を図りながら企業価値を高めていくために糸魚川産業プラットフォームの事業を立ち上げたとありますが、これから糸魚川商工会議所と糸魚川市が、この支援策の充実を図るには、事業に参加する企業、市民は、どのような情報提供と協力が必要になってくるのか伺います。

そして、いま一度、産業創造プラットフォーム令和元年度の事業計画を詳しくお聞かせいただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このプラットフォーム事業につきましては、市内の企業は中小企業がほとんどでございますので、各企業の強みを持ち寄りまして、連携して活動する土台となるのが、この事業であるというふうにご考えております。ということでもありますので、なるべく多くの企業ですとか、市民からご理解いただく中で参画していただくことが重要であるというふうにご考えております。

今年度の事業につきましては、「心地よい糸魚川」をキーワードにしておりまして、雇用、マーケット、ブランディングについて、取り組みを行っていくものとお聞きしております。具体的には、6つの柱がございまして、1つ目がシェアリングエコノミーの取り組み、2つ目が企業ストーリーの情報発信と人材募集の協働事業、3つ目がIoT、ICT技術の研究会の設置、4つ目がブランディングの研究会、5つ目が雇用の確保、6つ目が企業の魅力の認識と知識の共有というふうにご認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この6つの事業計画の項目の中で、市も大いにかかわってくるであろうその項目、ちょっと想定させていただいたんですけども、5番目の雇用確保というところの項目なんでございますが、外国人送り出し機関や市との連携により、市内企業が受け入れを円滑に行えるように支援するとありますが、その市の支援の方法とかかわり方を詳しく教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内で働く方の数が減っておりますので、そこについて外国人を雇用して、地域の産業を維持していこうということで、この事業が進められるものと思っております。今月、きょうまでですが、商工の研究会におきまして、ベトナムに視察に行っておられる、視察といいますかベトナムで雇用確保の取り組みをしておられるというふうにお聞きしておりますので、それらの状況を見ながら、市としてもバックアップなり連携をした取り組みをしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今、研修会でベトナムということだったんですけども、商工会議所がベトナムのほうに研修に出かけて、その後に、市がバックアップしてくというそんな認識でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

失礼しました。商工会議所が事務局になっておりまして、実際、このプラットフォーム事業のメンバーがベトナムに赴きまして、実際そちらの送り出し機関の方から、人材をこちら側に派遣いただけないかということ、そういう具体的なお話もされるものというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

続きまして、（2）のシェアリングエコノミーの活用推進事業の目的についてということで、再質問させていただきます。

総務省が発表した資料では、地域資源を有効活用し、市の生産性を高めるため、企業と市民の「コト・モノ・ヒト・トキ」の情報を可視化するとともに、データベースを構築、市民と市民、企業と企業、企業と市民のマッチングを実施するとありますが、まずは、多くの情報収集をするためにヒアリングや「コト・モノ・ヒト・トキ」のマッチングによる具体的な成功事例を周知していく

ことが必要になると考えます。そして、そのマッチングを図るためのコーディネートする力も必要になってくると考えますが、いかがでしょうか。そして、そういった準備もお考えか、お伺いしたいと思います。ヒアリングについても、詳しくおわかりであれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ここではシェアリングエコノミーに対する件につきまして、一般的なことでお答えさせていただきたいというふうに思っております。

今、議員がおっしゃられたように遊休資産を可視化して、共有する仕組みをつくって需要と供給がマッチングしたときに課題が図られていくという取り組みでありまして、新たな経済活動として展開されることになり、市内経済の好循環が期待できるものというふうに思っております。今ほど言われましたように、マッチングの支援機能ですとか自走できる運営体制などが課題でありまして、おっしゃるようなそういう専門的な知識を持ったコーディネーターが必要になってくると思われますし、中長期的な取り組みが必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

課長、1点、今後シェアリングしていく必要があると思うんですけども、そのシェアリングする何かしら方法がお考えかどうか、もしおわかりなら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

一般的には、人ですとか、物ですとか、わざにつきまして、データベース化しまして、そこへなるべく多くの企業ですとか団体から参画いただきまして、例えば物ですとか空き家について、こういう空き家があるけど、これを活用できる企業はないかとか、わざですとかこういう技能を持っている方について、活用できる場所がないかということでみんなで今ある資源を有効的に活用しようという取り組みでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。糸魚川商工会議所に聞き取りをさせていただきましたところ、シェアリングエコノミーの取り組みに関しては、今年度、登録企業の目標数が会員企業の全体の1割程度を目指しているという回答をいただきました。この分母がふえればふえるほど、個人的なイメージがありますが、企業の人や仕事の融通、遊んでいる機械や車両などの情報が共有できることで仕事の

新しい流れをつくることが想像できます。今までは、糸魚川市の産業を活性化しようという名目は見えていたものの、先の展開イメージが湧かない状況でありましたが、マッチング事例が見えてくると、その便益を得ることで会員企業もふえ続けると考えます。シェアリングエコノミー伝道師の存在も重要になってくると考えます。まずは、データベースを構築することが肝要になりますが、会員企業がその先の可能性に投資する一方で、データベース、情報取得のスピード感と日常の業務に密着した形が求められると考えます。現在考えられる情報取得の方法を教えてくださいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほども答弁させていただきましたが、この事業につきましては、いかに多くの方を、企業を巻き込むかというところが事業の成功するかどうかにかかっているというふうに思っております。具体的な地域、企業の巻き込み方につきましては、商工会議所の企業相談員ですとか、商工観光課の企業相談員ですとか、そういうメンバーも日ごろ持つてる情報を駆使しながら、拾い上げていく必要があるというふうに思っております。成功事例を示すことによって、多くの方が参画していただけるというふうに思っておりますが、何と申しますかハードルはそんなに低くなくて、徐々に積み重ねていくべきものであるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それで、今、長い質問の中に出てきたシェアリングエコノミー伝道師、ちょっとホームページ検索させていただきましたと、そういった方が列挙されているんですが、そちらの伝道師の活用のほうは、お考えかどうかお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

昨年度、商工会議所と市役所にも来ていただきまして、お話をお聞きしたところでございますけれども、今年度も引き続き、この事業にかかわっていただくように考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。（3）と（4）の質問をまとめた質問にさせていただきたいと思います。仕事の新しい流れを想像していく中で、データ集積によるビックデータ化の重要性は、おわかりかと思いますが、行政の立場から公共を維持していく上でも新しい視点が生まれるのではと考えま

す。例えば市外、県外の企業で賄っていたアウトソーシングも市内の企業で賄える内容が発見できるかもしれませんし、そうしていかなければならないと考えています。

今後のかかわり方として、いろいろな方法があるかと思いますが、情報の開示、取得の視点から、まずは糸魚川市が会員企業と企業の事業所、もしくは特別会員など、何らかの形で登録する必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市が、このデータベースの中にどのようにかかわっていくかということにつきましては、今後、詳しく詰めていく必要があるというふうに思っておりますけども、市といたしましては、遊休資産としまして、例えば廃校の利用ですとか、空間ですとか、備品ですとか、スキルですとか、そういうさまざまな物について、可能性はあるというふうに思っておりますけども、今後の検討課題であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

最後に、要望となりますが、市役所として公開できる情報と公開できない情報、例えば個人情報などがあり、取り扱いは慎重にはなりますが、現在、糸魚川市において一番のビックデータを取り扱うのは、糸魚川市役所であると考えます。まずは、事業コンセプトにある「心地よい糸魚川」となるべく、糸魚川産業創造プラットフォーム事業構築に向けて、糸魚川市も最大限の協力をお願いしたいと考えております。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にやはり遊休資産をどのように生かしていくかということは、非常にこれからの経済、また産業においては重要になってくるんだろうと思っております。私は、やはりいち早くそれに取り組むべきだろうと思っております。そういう中で、行政のやれる範囲というのは、そう多くはないと思っておりますが、加わって、そういった中で少しでも早くスタートできるように努めていきたいと思っておりますし、商工会議所を中心に今、動いていただいておりますが、今言ったように、いかに早く動いていかなければいけないのではないかなと思っております。ある程度数をどうのとか、どのような形で行くとかというんじゃなくて、遊休資産をどのように生かしていくか、そして、企業の皆様がどのように使っていくか、そこだけでいいと思っております。ですから、そういったところに、また市も加わっていきながら、スピーディーな取り組みになっていけるよう支援をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

市長、ありがとうございます。

続きまして、2番目の質問に入らせていただきたいと思います。

復興のほうでございます。（1）の再質問といたしまして、現在、駅北の拠点とされる糸魚川タウンセンター株式会社のヒスイ王国館、私も団体の総会や終了後の懇親会、団体の集会など、多様なコミュニティホールとして、月に何回も利用させていただいております。駅舎と隣接しており、大変便利な施設であり、糸魚川市においても重要な拠点施設であると考えます。

こちらに関しては、民間と地方公共団体の共同出資の第三セクターであることから、経営の安定化においても糸魚川市として注視すべき施設であると考えます。地域の方々や観光客、利用の用途は多岐にわたり、これからもいろんな方々が利用されていくと思いますが、にぎわいの拠点施設整備事業において、今後、整備される予定のもの、広場も含め、現在存在するヒスイ王国館の機能を侵害してしまうおそれがないとも限りません。新たに設置する予定の施設が、糸魚川市民の皆様にとって明確な目的、いつ、誰が、どのように、を持って訪れる施設にならなければならないと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、にぎわいの拠点等の話については、復興まちづくり計画のプロジェクトの中にも、ヒスイ王国館は拠点施設という位置づけでされております。あわせて、そのほかにということで昨年来ずっと検討を進めてきているにぎわいの拠点施設というのがあろうかと思えます。やはりそれぞれの役割があろうかなと思えますので、現在、昨年来、考えているにぎわいの拠点施設、復興におけるにぎわいの拠点施設というのは、子育ての環境充実、そういったものの市に資するような施設として、それを軸に今考えていきたいというふうに思っております。

また、これから今年度、事業をしていく予定にしております広場等についても、にぎわい創出広場でございますが、あちらはやはりまちづくりにチャレンジしていく方たちの活躍の場といいますか、スタートの場というような位置づけも持っておりますので、そういった中でのすみ分けをしながら、それぞれに相乗効果でありますとか、連携とれるような形での展開をしていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

そんな中、平成31年度糸魚川市一般会計予算では、にぎわいの拠点整備事業の基本構想を策定



する予算が盛り込まれております。本年度中にしっかりと糸魚川市駅北まちづくり会議において議論されると思っておりますが、昨年度の市民会議において、一部の方から箱物は必要ないという意見、反して、子育て施設の施設があったら非常にいいなという両極の意見がありました。箱物が必要ないという意見に対して、どのようにお考えでしょうか。そういった意見が出るのは、どういった原因があると捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

今ほどお話しいただいたように、やはり昨年のような市民会議や行ったところでの議論の中では、大きく賛否両論といたしますか、そういった形で話もあったかなというふうに思っております。1つは、ただ、糸魚川市が大きな課題として考えている人口減少、それから人口減少に対応したまちづくり、そういったものの1つの大きな施策、対応施策としては、やはり子育ての環境の充実というのが挙げられているんだらうと。そういった施策を展開する上で、必要な施設であれば、やはり箱物となろうが、やはりつくっていくといった姿勢も必要ではないかなというふうに考えております。この辺は、今年度において、また、まちづくり会議等で検討していく。そして基本構想等につなげていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

これから基本構想策定に策定において、いろいろ議論されていく中で、市の財源を活用する以上、拠点施設の整備の必要性が問われていくと思います。訪れる人が、目的を持って訪れることができる施設、そして当たり前のことなんです、計画の策定の段階で誰が喜んでくれる施設なのか明確であれば、利用してくれる方もふえると思いますし、糸魚川は便利に暮らせるまちだという認識が高まって、定住の理由にもつながっていくと考えます。この案件が進むと決まったならば、全力で応援させていただきたいと思います。

続きまして、(2)の質問に対して再質問でございます。

「まちあるき」のストーリーについてでございます。令和元年6月14日の糸魚川市駅北復興まちづくり調査特別委員会の資料の中で、道路美装化計画を確認させていただきました。

その資料の説明では、駅や海望公園展望台等を起点として、復興の中で整備した広場、公園、老舗事業所の散策、本町通り、口の字の広域商店街の回遊、歴史的観光資産の回遊するルートにおいて、街路景観の魅力を高めるものとするべく整備を進めていますとありました。地域の方々にも日常のお散歩コースとしても楽しんでもらえる工夫も凝らしていただきたいとも考えますが、まず、回遊するルートは、具体的に誰を対象に利用していただきたいとお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

まず、ご質問の中にあります新幹線乗降客を見据えたというお話の中でいけば、やはり糸魚川を訪れていただける観光客、そういった方が散策できる、そういった中で糸魚川らしい魅力を感じてもらえるような散策ができるような、そういったまちづくりということであろうかと思えます。

もう一点は、やはり糸魚川市民、町の中に暮らされている方もそうですし、糸魚川の中から町なかへ来ていただける方もそうですが、その方たちも何らかの生活や中でこういった糸魚川のまちを歩いて楽しめるといったことの仕掛けも大事じゃないかなというふうに思っております。大きくは、どちらかというよりも、やはり二面で捉えて活用を促していくという、そういったことが大事ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。やはり日常そちらに住まわれる、地域に住まわれる方が日常触れ合って接していくと思えますので、やっぱり日常にお住まいの方が楽しんでいただけるような工夫を中心にしていただけたらな。そして、二面性があるとおっしゃいましたが、観光客にも楽しんでいただけるような、そんなしつらえも考えながら進めていただきたい、そのように思います。

復興の整備が進んでいくと、最初は視察ですとか観光のすみ分けが必要になってこようかと思えます。今ある観光資源と新たに生まれてきたものとの融合が、今後の糸魚川市を象徴すると思えます。これらにある観光資源の点と点をどのように結びつけると観光客に喜んでいただけるのか、駅北の整備だけが糸魚川のまちづくりではありませんが、何度も申し上げますとおり、糸魚川の顔となる場所であると考えておりますので、地域の人たちと相談しながら、うまくコーディネートしていただけたらなと思えます。

続きまして、3番目、（3）の質問であります、高野寫眞館様の件でございます。

国土の歴史的景観に寄与する旧高野寫眞館のオーナー様より、当館を糸魚川市のために役立てていただきたいとのお話をいただきました。当館は、駅舎にも近く、過去に美装化された市道仲町通線からアクセスできる立地にあり、大変赴きのある建物であると思えます。そこを歩くと見えてくる赴きのある建物に触れていただくことで、観光客でなくとも歴史的な建造物の価値観に興味を示していただけたらと思えます。

あるものを生かすまちづくり、個人の資産ですので行政がこうするというをはっきり申し上げることはできないと思えますが、リノベーションのまちづくりのように遊休資産を有効に生かした上で、住み続けられるまち、にぎわいのあるまちの演出に役立たないかと考えます。

例えばでございますが、公共の視点で人が集まるイメージをするならば、ミニ図書館としての利用、カフェを併設するなど、やる気のある民間の方、例えば新規創業者との協働運営、新しい建物では味わえない心地よい空間がイメージできると思えます。

その傍らに、民間では運営し切れない背景もあります。新しくできるものに期待を寄せてはみませんが、民間との協働によるまちづくりの展開にも期待がかかっておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

歴史的景観の件でございますけども、駅北の地区には昭和の建物がかなり見受けられますので、その建物を外から見学できるようなまち歩きの素材として、活用していただければというふうに考えております。高野寫眞館につきましては、相馬御風筆の良寛の歌碑を移設して、来訪者の目に触れるように、また案内看板、解説板の設置もしておりますし、またこのたび、6月8日から11日の間に作陶展等で内部の見学、または展示会等で利用されておりますので、そのような活用をしていただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。このミニ図書館、カフェの提案については、あくまで一個人のイメージでありまして、質問・提案の要旨は、糸魚川市にとっても価値のある建物を有効に生かすために民間の皆様と一緒に考えていただいて、実現はしておりますが、そういう方向に向かって活用していただきたいということでございます。

先ほどの産業の糸魚川産業創造プラットフォーム事業によって、さまざまな情報の共有が可能となれば、新しい可能性も見えてくると思いますし、糸魚川市においては、復興のまちづくりの目標である「カタイ絆でよみがえる笑顔の街道糸魚川」をぜひとも実現していただきたい、そのように思います。

続きまして、（4）の「神話で結ぶご縁の会」の件でございます。再質問させていただきます。

2018年10月27日、古事記に登場する奴奈川姫と大国主命の伝説をきっかけに、出雲市や諏訪市との民間交流を進めている糸魚川市の市民団体、「神話で結ぶご縁の会」が、この伝説をモチーフにした巨大日本絵画を天津神社に奉納した3市長も同席し、神話で結ばれた縁を生かして3市の交流を拡大させていくことを誓い合ったと新聞報道にありました。

今後、この交流の広がり期待するところではありますが、当市として、今後考えられる交流で広がる観光の受け入れ体制、駅北周辺を見渡すと奴奈川姫にちなんだハード面に関する整備は、既に整ってる感もありますが、天津神社にも訪れてくれるお客様も期待できると考えております。これからの戦略等があれば、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この古事記をキーワードにしました3市の連携につきましては、奴奈川姫と大国主命、建御名方命ということで、お互いに関連する市においてブランド価値を高めまして、それによって、各市を周遊していただいたりして、交流人口の拡大に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、民間団体につきましては、民間の団体でそれぞれ勉強会をしたり、それぞれ訪問したりということでの活動も考えとるようでございますけども、市といたしましては、これらを総合的に活用して、交流人口の拡大につなげていきたいというふうに考えるものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えいたしますが、今、ご縁の会もあるわけでありましたが、しかし、3市が連携することにより、より大きな1つのネットワークができてくると思っております。そういう中で、まだまだご縁の会だけではなくて、市民の皆様方の中で奴奈川姫をいろいろ思っておられる方や、また考えておられる方もおられると思いますので、ご縁の会を中心にしながら、さらに連携ができることによって、もう少し大きくさせていただいて、また、我々もう一度、この奴奈川姫を見直す中で、その1つの締結を1つの機として、もう一度見直しをしながら大きいうねりに持っていければと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。

糸魚川駅北口のロータリー付近に、鎮座する奴奈川姫の銅像、こちらの銅像と握手をすると幸せになれるというお話をご存じな糸魚川市民の方は、どれだけいらっしゃるのでしょうか。

うそかまことかわかりませんが、こういった小さいストーリーを大切に温める必要があると思います。なぜなら、個人的な意見ではありますが、糸魚川市民の奴奈川姫に対する関心は、まだまだ浅く、こういった恣意的なストーリーが糸魚川の奴奈川姫に興味・関心を持つ導入の部分であると思うからです。

既に実施されているかもしれませんが、ぜひとも糸魚川小学校3年生のわかば活動の計画の中にある「わたしのまち糸魚川えがお探検隊」にも盛り込んでいただきたいと思います。素直な感性を持つ子供たちは、どのように感じてくれるのでしょうか。

いま一度、しっかりと昔からあるもの、神話を生かして活用していかなければならないということ、地域の方々に認識をさらに深めていただくために糸魚川の存在する神話を守り続けていただくということが大切であると思います。

今後、整備されていく駅北の地域と絡めて、まちづくりも進めていく必要があると考えます。新しく設置された翡翠と神話の地特別委員会、神話で結ぶご縁の会、国石ヒスイを活用した糸魚川市の魅力発信、糸魚川シティプロモーション戦略、糸魚川商工会議所支援ブランド「むすびいと」、翡翠婚式、奴奈川姫とヒスイを活用したさまざまな取り組みがある中、先導してくれる人、される人、町ぐるみで気軽に実践できることを推奨することが必要であり、地道な取り組みが観光の受け皿になると考えております。さまざまな取り組みを上手にコーディネートしていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

例えば「むすびいと」でありますとか、このご縁の会ですとか、今、商工会議所で持っておられる特別委員会ですとか、我々もオブザーバーとして参画しておりまして情報共有をさせていただくとるところでございます。

また、民間でなければできない取り組み、また行政でなければできない取り組み等ございますので、その辺は役割分担をしながら、何と申しますか全体を総合的な形で糸魚川市の観光振興、交流人口の拡大につなげていければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

最後の質問になりますが、「地域おこし企業人」に期待される効果についてでございます。

平成31年度糸魚川市一般会計予算の中で、観光協会支援事業の経費内訳の中の地域おこし企業人ですが、採用から数カ月たったと思いますが、糸魚川市観光協会に身を置く立場から見ますと、まだ活躍のお話が聞こえてきておりません。今後の活躍を期待しておりますし、優秀な人材を登用されていると思いますので、情報交換や連携をこれからもさらに密にさせていただき、しっかりと実りのある登用になるよう注視していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、観光協会に勤めていただいております佐竹さんにつきましては、日本旅行社から派遣されておりまして、これまでのおつき合いを通じまして、派遣をお願いしたところでございます。市長の答弁にもございましたように、これまでの知識と経験を生かしまして、糸魚川市の観光並びに観光協会の運営に寄与していただけるようにということで考えております。今、企画課長ということで旅行商品の開発をメインに業務を行っていただいておりますけども、確かにまだ目立った動きはありませんが、秋のDCのシーズンに向けまして、何らかの形で結果が見えてくるようなふうにしていきたいと思っておりますので、今後とも情報交換並びに連携に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

企画課長ということで、旅行商品の開発をメインということなんですけども、どういったリサー

チをとりながら、どういった行動・活動をされてるのか、少し具体的にわかったら教えていただきたいんですけど、地域とどんなかかわりを持ってやってられるのか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

旅行商品につきましては、山の商品ですとか、例えば酒蔵めぐりのツアーですとか、そういう部分について企画されてるといふふうにお聞きしておりますけども、地域に入ってどのような活動をしてるかというところまでは、申しわけございませんが、承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

当初、着地型観光の商品開発ということで、これ本当に入り込まないとなかなか地域の特性も理解しなきゃならないと思いますし、そういったところでそういった入り込みがないと、製品というのはできていかないのかなというふうに考えておりますので、ぜひ地域と深いかかわりを持ちながら、いろんな情報を集めながら商品の開発を目指していただきたい、そのように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これはDMOにも通じるところなんですけど、観光業者、観光に係る事業者だけでなく、生産者だったり、地域の住民だったりということまで巻き込むことが観光地域づくりということで、DMOの役割だと思っております。まだそこには至っておりませんが、これをきっかけに少しでもそういうところに影響、波及していけるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この地域おこし企業人、1年間で800万円という大きな金額、予算持ってあったかと思うんですけども、やっぱそれに見合った効果というのを市民の皆さん期待しておろうかと思えます。時間は本当にあつという間に過ぎてしまいますので、しっかりと動いていただいて、しっかりと1年間の間で出せる成果、出していただきたいなというふうに思います。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり負担金として、日本旅行社に800万円をお支払いしとるところであります。

ただ、特別交付税措置もございますので、まるきり全てというわけではございませんが、いずれにいたしましてもおっしゃるとおり、この貴重な人材を活用して、糸魚川市の観光に寄与するように努めていただきたいと思いますし、私どももそうしていくように努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も観光協会に所属させていただいておまして、DMO、組織の中、入っているんですけども、なかなか成果が見えてこない、具体的に何していいかもわからないという状況がしばらく続いておりますので、ぜひともそういった着地型観光商品の開発で、先が見えてくるんじゃないかなと思っております。飯山市の事例でも300つくって採用されるの3つぐらい、そんな確率で彼ら動いておりますので、その勢いをもって糸魚川市も頑張っていただきたいなというふうに要望させていただきまして、質問を終わりたいと思います。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。〔4番 吉川慶一君登壇〕

○4番（吉川慶一君）

清政クラブの吉川慶一です。

1回目の質問をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

1、林業振興策について。

令和元年から新たな森林経営管理法が施行されます。本法の趣旨については、大きく二つ、森林の持つ多目的な機能を発揮する適切な森林整備及び林業の成長産業化の推進と理解しています。これにより創設された森林経営管理制度は、私有人工林の荒廃防止を目的とするものです。森林管理の責任が所有者にあることを明確にし、管理のできない森林は市町村があずかり、再度「意欲と能力のある林業経営者」へ再委託することで、私有林を持続的に管理するものであります。

また、これに伴い財源として森林環境譲与税が国から譲与されます。試算では、当市への譲与額は1,500万円との回答があります。令和6年から、個人住民税の納税者一人当たりの年間1,000円が、全国均一で徴収されると聞いております。